

# 令和2年度 決算報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

\* 千円未満四捨五入

(1) 経常収益は、前期より174万7千円増の2428万5千円でした。前期の受取国庫補助金(353万円8千円)分がそっくりマイナスとなる一方、日本財団から助成金506万円を受領したことなどにより、差し引きで増収となりました。このほか、財団報「新時代」の紙面を活用した企画特集などによる「その他事業収益」が91万9千円増の136万円となり、新型コロナウイルス感染症の影響で24万4千円減となった武蔵野市からの受託事業費分、17万7千円減となった財団報売上分などのマイナスをカバーできました。

(2) 日本財団の助成を除く経常収益の主な内訳は

- ① 基本財産運用益 国債などの受取利息568万7千円
  - ② 受取会費は毎日新聞社、東京放送、毎日放送の各賛助会員から912万5千円
  - ③ 事業収益は武蔵野市認知症相談事業収益の132万円、財団報売上92万9千円など計360万9千円
  - ④ 受取寄付金は、朝日生命と個人からの寄付で計80万4千円
- となっています。

(3) 経常費用は事業費が2817万3千円、管理費が458万3千円の計3275万6千円で、前期比467万4千円減となりました。前期の国庫補助事業に伴う諸謝金、旅費交通費などがなくなったこと、コロナ禍による電話相談の一時休業による経費減などにより、事業費が477万7千円の大幅減となったことが影響しています。主な経常費用は事業費、管理費を合わせ諸謝金917万7千円、賃借料528万2千円などとなっています。

(4) これらの結果、経常収益から経常費用を差し引いた当期経常増減額は、評価損益等調整前で前期より642万1千円改善し、マイナス847万2千円となりました。また、2000万円余の国債売却益に加え、すべての債券で時価が原価を上回っていたことから、評価損益等調整後は3052万9千円改善し、264万4千円のプラスとなりました。

(5) 経常外収益、及び経常外費用はともにありませんでした。

(6) 当期末の資産は、流動資産が前期比1248万4千円増の2927万9千円となっています。一方、固定資産は基本財産が前期比1億9029万4千円増の5億4487万4千円となりました。新たに毎日新聞社より基本財産に組み込み公益事業に充てることを条件とした指定寄付2億円を受け取り、毎日新聞HDGの株式8万口を購入したことに伴うものです。また、その他固定資産(リース資産ほか)は302万3千円で、固定資産合計は5億4789万7千円です。資産合計は5億7717万6千円、負債合計は313万9千円です。この結果、正味財産合計は、前期比2億264万4千円増の5億7403万7千円となっています。